

報告事項（２）上相川地区の分布調査について

1 令和4年度の分布調査の概要

上相川地区は16世紀末～17世紀初頭にかけて、金銀の採掘が始まる相川金銀山の成立に伴って形成された鉱山集落遺跡である。遺跡は、標高150～200mの段丘上及び緩斜面地に立地しており、東西約800m、南北約300m、面積は約20haに及ぶ。慶長5(1600)年に「金山町当起(登記)」と記述があることからこの頃に成立したと考えられ、その後、相川金銀山の発展と共に最盛期を迎えたが、水害や金銀産出量の減少などにより、賑わいの中心は次第に現在の市街地の方へと移っていき、明治末期にほぼ無人となった。(平成25年3月史跡追加指定)

調査地点は国史跡佐渡金銀山遺跡内の初期集落域である上相川地区の内容確認に伴うものであり、調査が未了の約5,600㎡の範囲の詳細分布調査を行う。

2 調査期間

令和4年10月19日～12月12日(途中、中止期間を含む)

3 調査体制

佐渡市観光振興部世界遺産推進課が調査主体となり、新潟県観光文化スポーツ部文化課から指導を受け、実施した。

4 調査成果の概要(速報)

- ①対象地 約5,600㎡について篠竹及び下草刈、枯死木の伐採等を行った。
- ②調査地点は、田町ほか。
- ③田町において、短冊形の区画が整然と並んでいることを確認した。
- ④田町と弥左衛門町の町境の水路跡を確認した。
- ⑤テラスのほぼ全面において竹や枯れ葉・枯れ枝等が堆積しており、採取遺物は確認できなかった。

令和5年度の竹や枯れ枝等の粉碎作業に伴い、表採遺物の有無の確認を行う予定である。